

**具体的な施策・重要業績評価
指標（K P I）進捗状況評価票
【対象：平成 29 年度】
（審議用）**

具体的な施策・重要業績評価指標 (K P I) 進捗状況評価票
(対象:平成 29 年度)

基本目標	4	地域とつながる安心な暮らしの確保
基本的方向	1	みんなが安心して暮らせる地域づくり
具体的な施策		公共施設・インフラの計画的な管理及び運営
主担当課	建築施設課、管理課、公園緑地課	
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設マネジメントの取組として、公共施設の最適化と計画的保全に努め、市民が将来にわたり良好な環境で施設を利用できるよう努めます。 ・老朽化が進むインフラ（道路・公園等）を長期にわたり安全に管理していくため、インフラマネジメント計画に基づき、推進します。 	

1 重要業績評価指標 (K P I)

指標名	単位	現状	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
公共施設の市民 1人当たりの 延床面積	㎡/人	現状維持					
		2.52	2.49	2.48	2.60		
			A	A	B		
公園や都市緑化で 緑あふれるまちと しての市民満足度	%	74.0					
		70.3	76.2 70.0	76.7 70.6	71.1		
			A B	A B	B		

- 進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

指標 「公園や都市緑化で緑あふれるまちとしての市民満足度」について、平成27年度及び28年度の実績値が誤っておりましたので、お詫びして訂正いたします。
また、訂正に伴い、平成27年度及び28年度のKPI評価も変更いたしました。

《内容と原因》

指標 は毎年度実施している「第6次府中市総合計画に関する市民意識調査」の結果により算出しております。調査は「(1)満足」、「(2)まあ満足」、「(3)どちらともいえない」、「(4)やや不満」、「(5)不満」の5択で選択していただく形式となっており、実績値は「(1)+(2)-(4)-(5)」とすべきところを、修正前の実績値は「(1)+(2)」としたものです。

2 進捗状況評価（担当課）

【平成29年度の取組内容と評価】	
<p>担当課 評価</p>	<p>公共施設マネジメントの取組を進めていく上での実行計画に位置付けている第1次府中市公共施設マネジメント推進プランの計画期間が、平成29年度をもって満了することに伴い、平成30年度以降も着実に取組を進めていくため、広く市民を対象とした意見交換会やパブリックコメントを経て、第2次府中市公共施設マネジメント推進プランを策定した。</p> <p>また、KPIが2.6㎡/人と、前年度と比較して大きく増加しているが、当該指標の算出には、平成29年度末時点における公共施設の総延床面積を用いており、処分等が決定しているグリーンプラザや旧学校給食センターなども含んでいる。これらの処分等が決定している施設を総延床面積から除くと2.48㎡/人となり、昨年度と同じ数値であることから、順調に進捗している。</p> <p>KPIについて、平成27・28年度の実績値に誤りがあったため、お詫びして訂正いたします。27年度は現状値から微減のため、「B」評価、28・29年度も前年度から微増のため、「B」評価とした。</p> <p>公園を憩いの場として市民が快適に利用できるよう、公園・広場や緑道などの清掃や除草、樹木の剪定及び伐採、砂場の殺菌などを行い、適切な管理に努めた。さらに、公園、緑地や市内の公共施設（花壇、フラワーポット等）に四季折々の草花を植え、草花を愛する豊かな心を啓発するとともに、まちの環境美化を促進した。</p> <p>また、平成30年3月に「西原町4丁目公園」を新たに開設し、安全で安心して利用できる公園整備を図り、施設の維持・補修に努めたほか、安全で快適な通行路を確保するため、緑道など、10件の整備を行った。また、公園施設の長寿命化に向けて、公園施設51か所の調査等を行った。</p> <p>なお、インフラマネジメントについては、計画改定のための協議会を立ち上げ、インフラの数量や管理経費等を更新し、府中市インフラマネジメント白書（2017年度）を作成するとともに、当該計画の改定案を作成した。また、インフラマネジメントを推進する取組として、道路等包括管理事業（北西地区）の受注候補者の選定、街路灯・公園灯をLED化するESCO事業、府中市橋梁長寿命化修繕計画の策定などを行った。その他、関連計画である府中市緑の基本計画2009の改定のため、協議会を立ち上げ協議を行った。</p>
<p>B</p>	
【平成30年度における取組など】	
	<p>第2次府中市公共施設マネジメント推進プランに定めるモデル事業3「宿泊機能・サービスの今後の在り方」について、有識者や公募市民等で構成する検討協議会を設置し、検討を進める。また、モデル事業4「包括管理業務委託による公共施設の維持・保全」について、平成31年度からの試行的な実施に向けた検討を進める。</p> <p>引き続き、公園の適切な管理やまちの環境美化に努めるとともに、長寿命化に向けた取組を進めていく。</p> <p>また、パブリックコメントを経て、府中市インフラマネジメント計画（2018年度）を策定するとともに、インフラマネジメントを推進する取組として、道路等包括管理事業（北西地区）の試行及び検証、長寿命化計画策定のためのベドストリアンデッキや公園施設50か所の調査及び点検など取組の進行管理を行う。また、シンポジウムを開催し、インフラマネジメントの周知を図る。その他、引き続き府中市緑の基本計画2009の改定のため協議会を開催し、協議を行う。</p>

- 評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。
 B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。
 C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評価	KPI については、2.6 m ² /人と前年度と比較して大きく増加しているものの、処分等 が決定している施設を除くと2.48 m ² /人であり、現状とほぼ同水準であることから、概 ね進んでいると評価できる。
B	KPI については、現状より微増していること、また、計画の改定に向けた取組の開始 など、現在の取組に加え新たな取組を行っていることから、概ね進んでいると評価でき る。

- 評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標 (K P I) 進捗状況評価票
(地方創生関連交付金対象事業)
(対象:平成 29 年度)

事業名	百人一首かるたコンテンツを活用した観光誘客推進事業	
基本目標	2	定住促進に向けたにぎわいの創出とふるさと意識の醸成
基本的方向	1	府中の魅力を活かしたにぎわいの創出
具体的な施策	市の魅力を高め、知名度を向上させる活動の推進	
主担当課	経済観光課	
事業概要	・国内外で普及しているかるたコンテンツやかるたを題材とした人気漫画「ちはやふる」を活用し、同作品ゆかりの地である滋賀県大津市、福井県あわら市、東京都府中市の3市と、関連企業、商業施設などが官民で連携することで、かるたコンテンツを発信し国内外からの観光客を誘致します。	

1 重要業績評価指標 (K P I)

指標名	単位	現状	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度
		目標				
		実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
京王線府中駅における1日の乗降人員	人	現状値以上				
		85,279	88,100	90,224		
		平成26年度の実績	A	A		
京王線分倍河原駅における1日の乗降人員	人	現状値以上				
		89,249	92,493	94,116		
		平成26年度の実績	A	A		
府中市主要観光施設 (観光情報センター・観光物産館・郷土の森博物館・美術館・JRA競馬博物館・サントリー武蔵野ビール工場)観光入込客数	人	1,000,000				
		819,625	956,817	939,931		
		平成27年度の実績	A	B		

- 進捗 A : 目標達成に向け、順調に進捗している。
B : やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
C : 遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【平成29年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	<p>「ちはやふる」とタイアップしたスマートフォン向けのデジタルスタンプラリーアプリを開発、イベントを実施した。作品で登場する場所のほか、市内店舗などをラリーポイント等に設定、紹介することで参加者の市内周遊を促した。各ポイントではクイズが出題される形式で、問題を作品や百人一首、府中市に関するものだけでなく、ともに作品の舞台となっている大津市、あわら市に関連するものにして連携のPRを図った。また、片町文化センターにて、地域のかかるた会が主催している初心者かるた大会は、引き続き開催に協力した。KPIの が減少した要因については、郷土の森博物館のプラネタリウムが、平成29年10月10日から平成30年5月1日まで改修工事をしていたことが要因の1つと考えられる。</p>
A	
【平成30年度における取組など】	
<p>「ちはやふる」の主人公達が府中市に住んでいることから、これまでに制作したロケ地マップという切り口ではなく、主人公達が府中の見どころを紹介するガイドマップを制作する。そして、掲載されている店舗や施設を巡り、そこに設置されたパネルに書かれた文字を集め、キーワードを完成させるラリーイベントを実施する。また、京王電鉄でも「ちはやふる」とタイアップした、京王線の駅を巡るスタンプラリーが実施される予定である。そこで、実施時期を合わせ、京王線のラリーに府中駅を加えてもらうことで、参加者が2つのラリーに同時に参加できる仕組みを作る。さらに、互いに広報や告知の協力をすることで、単独で実施するよりも大きな規模での誘客を行なう。例年実施している片町文化センターでの初心者かるた大会は、引き続き地域のかかるた会に協力して開催する予定である。</p>	

- 評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。
 B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。
 C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ K P I 及び については、順調に推移している点は評価できる。取組内容からも「ちはやふる」をきっかけに、府中市を訪れる人々に対して、地域の魅力を知ってもらえるような仕掛けがよく考えられている。また、かるた大会は定着していけば、府中市の新しい魅力となっていく可能性もあるのではないかと考える。例えば、府中市出身者の競技かるた選手や、京王線沿線出身の選手を紹介し、実際に活躍されている姿を見せることで市内外にアピールする方法もあると思われる。 ・ K P I については、郷土の森博物館のプラネタリウムが対象期間中改修工事をしていたことを要因としているが、今後の数値の推移を注視していく必要がある。 ・ 取組の趣旨は、「国内外からの観光客の誘致」であり、国外への P R ・ 発信に対する取組を実施し、今後も長く、多くの人が府中市を訪れる事業として発展することを期待したい。 ・ K P I ~ のほか、イベントの参加者数やアプリの利用者数の把握に努めてもらいたい。
A	

- 評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標 (K P I) 進捗状況評価票
(地方創生関連交付金対象事業)
(対象:平成 29 年度)

事業名	市有財産の活用による中心市街地活性化に向けたまちづくり推進事業 平成29年度より「中心市街地活性化事業」と統合	
基本目標	2	定住促進に向けたにぎわいの創出とふるさと意識の醸成
基本的方向	1	府中の魅力を活かしたにぎわいの創出
具体的な施策		地域の連携によるにぎわいの創出
主担当課	財産活用課、経済観光課	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・官民連携による市有地活用のための民間事業者の募集および契約に当たり、助言や支援を受けるためのアドバイザー業務を委託し進めます。 ・中心市街地における「にぎわいの創出」と「回遊性の向上」を図るため、商業者等が一体となった取組を中心的に推進するまちづくり府中へのスタートアップ支援や、活動目的であるエリアマネジメントの推進に向けた支援を行います。 ・J R A 東京競馬場の来場者を中心市街地へ呼び込むための取組として、購入した馬券を提携店舗で提示することでサービスが受けられる「東京競馬応援サポーターズ事業」を実施しています。この事業の取組回数の拡大および効果的な P R 方法の検討により認知度を向上させるとともに、提携店舗を増加させることにより来場者の多様なニーズに応えられるような環境を整備することで、J R A 東京競馬場来場者の中心市街地における飲食を促し、商業の活性化を図ります。 	

1 重要業績評価指標 (K P I)

指標名	単位	現状	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度
		目標				
		実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
府中駅周辺公共施設の再編に伴う新たな活用を行う施設数	件	2				
		0	0	1		
		平成27年度の実績	A	A		
休日のけやき並木通りの歩行者通行量	人	現状値以上				
		19,378	15,586	25,500		
		平成27年度の実績	C	A		

大規模商業施設の年間販売額	億円	353				
		339	334	300		
		平成27年度の実績	B	B		
東京競馬場タイアップ参加店舗数	店舗	20		100		
		17	100	66		
		平成27年度の実績	A	B		
東京競馬場タイアップ来店数	組	200		16,000		
		104	17,190	8,465		
		平成27年度の実績	A	B		

- 進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【平成29年度の取組内容と評価】	
担当課 評 価	<p>府中グリーンプラザ敷地活用方針を策定し、当該敷地を活用する事業者の決定に向け、募集要項等の作成・公表を行った。さらに、選定委員会を設置し、書類審査やプレゼンテーション審査などを踏まえ、当該敷地を活用する優先交渉権者を決定した。優先交渉権所と交渉を重ねた結果、選定事業者とすることとし、基本協定の締結を行った。また、ふれあい会館敷地については、サウンディング型市場調査の結果や庁内要望を踏まえ、引き続き活用方法の検討を行うこととした。</p> <p>市から一般社団法人まちづくり府中への委託事業では、年末年始に中心市街地を訪れた方々へのおもてなしとして、竹を用いたライトアップ事業を実施した。竹あかりの製作に当たっては、市民の方々からもご協力をいただき、多くの方にとって思い入れの強い事業となった。にぎわいの創出に寄与した。また、長さやデザインの異なるオブジェを中心市街地内10か所に展示したことで、中心市街地内における回遊にも大きな効果があった。加えて、平成29年11月より、大國魂神社前にある未利用市有地の今後の活用方法を検証すべく、チャレンジショップを設置し、実証実験を行った。</p> <p>また、一般社団法人まちづくり府中の自主事業としては、一般社団法人まちづくり府中がコーディネーター役となり、府中駅南口に存在する大規模商業施設間の連絡会議が立ち上げられ、合同セール「キテキテ府中」や市内大学と連携した「FUCHU WORLD FESTIVAL」が催され、多くの来街者を迎え入れた。</p> <p>しかし、大規模商業施設の年間販売額に反映されるには至っておらず、上記取組の継続・発展が必要である。</p> <p>中心市街地の活性化に向け、一大集客施設である東京競馬場から本市中心市街地への回遊を創出すべく、タイアップ事業を一般社団法人まちづくり府中へ委託し、実施した。平成29年度は、スマートフォンを活用したスタンプラリー形式で実施したこともあり、スマートフォンをお持ちでない高齢者等が参加できず、課題が残った。</p>
B	

【平成30年度における取組など】

旧府中グリーンプラザについては、選定事業者との建物無償譲渡契約や事業用定期借地権設定契約など、各種契約が遅滞なく締結できるよう選定事業者との交渉を重ねていく。旧ふれあい会館については、市事業の代替地として活用することとし、事業協力者との土地売買契約締結に向け、交渉を重ねていく。

市から一般社団法人まちづくり府中への委託事業では、竹を用いたおもてなしライトアップ事業を平成29年度に引き続き実施する。また、平成29年度まで、むさし府中商工会議所が実施していた「府中マルシェ」について、民間の自由な発想により、さらに発展を図るべく、一般社団法人まちづくり府中への委託により実施する。

一般社団法人まちづくり府中の自主事業としては、大規模商業施設の連絡会議に京王SCを新たに加え、さらなるエリアの魅力発信につなげる。また、市内では初となる「まちゼミ」の開催により、大規模商業施設とは異なる個店や店主の魅力を知らせていただくコミュニケーション事業を実施し、にぎわい性の強化につなげる。加えて、平成29年11月より設置している大國魂神社前市有地のチャレンジショップについて、10月末を目途に検証結果をまとめ、以降の中期的な活用に向けた準備を進める予定。

平成29年度についてはスマートフォンを持っていることが参加要件となっていたことから、参加者数が思うように伸びなかった反省を踏まえ、平成30年度は、昨年と同様のデジタルスタンプラリーに加え、東京競馬場来場者の市内店舗への誘導策を強化するため、アナログ施策を併用することで、気軽に当事業に参加できる仕組みとし、参加者数の増加を図る。

- 評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。
B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。
C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評価	<p>・ K P I 及び については、中心市街地の再開発が進むなど、取組が順調に進展しており、確実に活性化の成果は出ていると評価できる。</p> <p>しかし、 K P I が約 1 万人も増加する一方で、 K P I については、年々減少傾向にあり、現在の取組内容の継続・発展だけでは目標達成が厳しいように思われる。施設内の店舗の入れ替えや改装を行い、テコ入れしているのが見える部分もあるが、大規模店と連携し、 K P I が下がっている理由を分析するなど、今後の巻き返しに期待したい。</p> <p>・ K P I 及び については、ともに減少傾向であり、特に K P I については 17,190 組から 8,465 組に大きく減少している。担当課はデジタル・アナログ方式の併用により数値の回復を図るとしているが、 K P I はデジタルアプリに対応出来ない店舗があったから減少したのか、アナログ施策を併用することで店舗の増加が期待できるのか、さらには、デジタルスタンプラリーについてどのように取り組んでいくのかなど、 K P I が減少となった原因を分析したうえで、取組内容を検討してほしい。</p> <p>今後の成果によっては、本事業が的確なのか、また、東京競馬場から中心市街地への人の流れは、スタンプラリー以外の方策も検討することが必要ではないか。東京競馬場から中心市街地までの地理的な近さを東京競馬場の利用者に伝えるような一層の工夫を期待したい。</p>
B	

- 評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。